

ドラゴンズプリキュアゴット！

アイス

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

処女作やからお手柔らかにね

目次

0. 5話 「設定」	1
第一話 「プリキュア達との最悪な出会い!」	3
第二話! 「誕生! 蒼き地球の勇気の守護者!」	12
第三話! 「不死身のキュアハート! たった一人のヒーローの戦い!」	25
第5話 激しい修行で生まれた力 (キュアハート編)	35
第6話! 鏡からの支配者	44
第7話! 圧倒的な力!	54

0. 5話 「設定」

孫悟空（女）

ドラゴンボールに出てくる孫悟空（女 version）

転生前は孫裕也（そんゆうや）（女）

転落事故でなくなってしまう、神からの特典でプリキュアの世界に転生する

転生前の記憶はなくなるが、プリキュアになれると同時に孫悟空の力を手に入れられる

変身しなくてもある程度戦える

ドラゴンボール超ブロリーまでの力を持つ

人参（は？）とドラゴンと武道家をモチーフとしたプリキュア

青のインナーの上にオレンジの道着背中に亀という字がある

ズボンではなく可愛いスカートに代わり、頭の色がピンクになる

キュアカカロットに変身できる

超サイヤ人、2、3、ゴット、ブルー、身勝手の極意

時空転送でキュアベジータを呼び出せる

転生後の主な経路はプリキュアがいる地球とはまた別の地球から

きた存在として扱う

別の地球でウイスから闇の力を感じ悟空にその謎を解明してほしい
一人で調査に出かけるのであった…

悟空「ウイスさん…なんでオラだけ別の地球に行くんだろうな…ベジータも連れて行きやいいのに」

悟空は宇宙船の中にある重力室（300倍）で修業しながら考えていた。

悟空「ま！考えてもしょうがねえよな…よし！いっちゃよつか！」

しばらく筋トレをしていた悟空だが、突如宇宙船が大きく揺れた

悟空「うわ!?なんだなんだ!?襲撃か!」

悟空は急いで重力を解除し、急いで仙豆を持ち運転室に更に造園が行った

宇宙船の外を見て見ると宇宙船あちこちにおり、宇宙船を撃つていたのだ。

悟空「くそつたれ…だったら反撃してやつぞ！」

悟空は宇宙船を操作して宇宙船の中にあるレーザーを放出

このレーザーは悟空の気がなくなるまで打ち続けることができる

悟空のレーザーで宇宙船を蹴散らしたが、更に増援がやって来た

悟空「くそ…これじゃキリがねえ…宇宙船から出てかめはめ波だ！」

宇宙船から脱出する為に気で全身をまとうように空気の層…簡単に言えばインスタント宇宙服の完成

悟空「かめはめはあ~~~~~」

散らばってる宇宙船をまとめて消した

悟空「宇宙船の中には気を感じなかった…無人戦闘機つてやつか？物騒だなあ…」

素晴らしい、宇宙船の中に戻り幸いどこも壊れてなかったので点検を
してまた修業するのだった…

界王様「次回のドラゴンズプリキュアゴットは記念すべき第一話
じゃー！」

『ドラゴンズプリキュアゴット！プリキュアたちとの最悪な出会い
!?!』

悟空「絶対見てくれよな！」

界王様（この小説を作ってる主は左手の薬指が骨折してしまいました
た…なので亀投稿じゃから許して）

第一話 「プリキュア達との最悪な出会い!」

あらすじ! 宇宙船倒した! 以上!

悟空 「よし: もうすぐ着くな:!!」

宇宙船から青い星: 地球にあと少しでたどり着くところだった。

悟空 「地球からまあまあ強い悪の気がどんどん現れていくぞ:

一体どうなつてんだ:?: 瞬間移動してえ所だけど、いかんせんこの

地球は見たことも感じたこともねえから出来ねえ:!!」

一方プリキュア達は:

場所 海老名市

そこにはプリキュアオールスターズがいた

なぎさ 「なによくあいつ!」

??? 「これは失礼プリキュアの皆さん: 私はギーロと申します」

と高い所からそういうギーロ

ほのか 「なんでここを襲撃するの!?!」

ギーロ 「ふん: 人々から絶望の目を奪うためですよ」

つぼみ 「絶望の目?」

中には物理的に取り出すと思えばビビっているプリキュアもいた

ギーロ 「もちろん物理ではないのでご心配なく: 出会ったサービス

に

私の能力を教えて差し上げましょう! 私の能力は相手が目で見て

覚えている

力を不完全ですが再現して作り出すことができるんですよ:!!」

ギーロは右手をまるで高い所から種をばらまくような動作をし、

地面に当たると同時にアカンベエやデザトリアンなどが

何体も出現する

ゆり 「数が多いわね: 倒しきれるかしら」

いつき 「ゆりさんらしくないよ? その発言:」

ゆり 「聞いてみただけよ」

なぎさ 「みんな変身だよ!」

プリキュアオールスターズ 「OK!」

プリキュアが変身した直後プリキュアオールスターズは
雑魚敵を一掃するために仲間を助け合いながら順調に倒していく
ギーロ「おっと、なかなかやりますねえ…」

ブルーム「不完全な存在だからほとんど一発で倒せる！」
イーグレット「これなら…！」

プリキュアオールスターズは勝機を見つけ自身にバフがかかる

ギーロ「なるほど…見たとうりの強さですね…フフフツ」

ギーロはまるで獣を捕獲するために自分で仕掛けた罠を

引つかからないかなあと子供のように待つギーロ

プリキュアオールスターズはギーロの罠を警戒もせず次々と倒し
ていく

ギーロ（馬鹿め…！俺が罠を仕掛けているのがわからないのか…？
と言ってもすでに引つかかっているがな…）

待っている内にプリキュアオールスターズは楽々倒した

マリリン「あんたの敵弱すぎい！もつとちゃんとやってよお？」

マリリンは滅茶苦茶煽る

メロデイ「煽るのやめてよマリリン…」

うんうんと頷くオールスターズ

ギーロ「私の城…ギーロ城にご案内しましょう！」

ギーロは左腕大きくプリキュアオールスターズの下に城を立てる

プリキュアオールスターズはそれと同時に意識を失う

一方孫悟空は…

孫悟空「弱い気から急に強くなって、そしてそのまま動かないでい
る…

ほんとにどうなってんだ？」

AI「孫悟空様、間もなく着地しますので席にお座りください」

宇宙船の中にあるAIが作動し孫悟空に警告する

孫悟空「わかった！」

孫悟空は席に着地し、衝撃に備えた

AI「それでは着地します」

その瞬間宇宙船が空に瞬間移動した、瞬間移動したその衝撃で物と

かいろいろ

落ちてしまった

悟空「ありやりや…落ちちまったよ…後でやるか！」

悟空は宇宙船から飛び降りる

悟空「なんだ？あの城は…あそこの中に大きな気がある…いつてみつか！」

悟空は無空術で城の窓から侵入し、それと同時にノーモーションでキュアカカロットに変身する嫌な予感がしたからだ

カカロット「こ、こいつらか！でかい気を感じたのは!?!」

カカロットはオールスターズの出ている気を感じ取った

カカロット「この紫色の花みたいな服の奴が一番強いな…こいつの記憶をしてみるか」

ムーンライトの頭に右手を置き、記憶を探った

カカロット（年は17で、小さいころに父ちゃんを失った…若いくせに

ずいぶん物騒な事件にあつたんだな…よし！全員の名前は覚えた！）

カカロット「よつと…」

カカロットが右手を離して一息ついた瞬間、ムーンライトがカカロットに拳で殴った

が、カカロットは左手で止めた

ムーンライト「貴方…私に何をしたの？」

ムーンライトは殺気を出しそういう

カカロット「どうもしてねえ…といや？だ

お前の記憶を見ただけさ…!」

カカロットは真剣な顔つきになりムーンライトにそういう

ムーンライト「何の目的で…？」

（こいつから殺気は感じないわ…あの顔つきにしては穏やかな心がある…）

誰よりも、ずっとずっと優しい心がある…）

ムーンライトは少しだけ警戒を解く

カカロット「名前とかそんなところだ」

カカロットは少し省略し、そういつた

ムーンライト「そう…ごめんなさい私の勘違いだったわ」

ムーンライトはそう言い、謝る同時に殺気も解く

ムーンライト（殺気を放ったというのに、こいつは

震いもせず落ち着いていた、こいつ…私たちが力を合わせても

かてるのかしら…?）

マリン「とりゃ!」

マリンが急に立ち上がり、カカロットにキックをかます

カカロット「でりゃあ!」

カカロットはマリンの足をつかみ元いた場所にふつとぼす

マリン「ムーンライトさんになんかしたでしょ!」

どうやらマリンはムーンライトが襲われていると勘違いしたそう

だ

ムーンライト「マリン違（待て）…え?」

カカロットはテレパシーでムーンライトの脳内に話しかける

ムーンライト（その声…あなたの?）

カカロット（ああ!オラだ!こいつらと一回戦ってみてえ!

お前もマリンの話にわざと乗ってオラと戦ってくれ）

ムーンライト（もしかしてあなた戦いが好きなの?）

カカロット（ああ!大好きだ!）

とんでもない戦闘狂ね…と小さく呟くムーンライト

マリン「ムーンライトさん!大丈夫つしゆか!」

ムーンライト「ええ大丈夫よ」

オールスターズも今さっき起きて、状況を理解したそうだ

ムーンライト（これが?じゃなかったら最悪な出会いね…）

カカロット「さあこい!」

カカロットはオールスターズに向けて空のように静かに構える

ムーンライト「ブロッサム!いくわよ!」

ブロッサム「はい!ムーンライトさん!」

ムーンライトとブロッサムが同時に飛び出し、二人の歴戦を重ねた

猛攻を難なく受け止める

カカロット「よし！体があつたまつてきたぞ！」

カカロットは腕をクロスし、ムーンライトの右腕を左手に反対側もブロツサムと同時に引っ張って二人の頭をぶつける

ブロツサム「痛い！」

ムーンライト「ぐ…！」

ブロツサムとムーンライトは膝をついて頭を抑える

カカロット「ん？」

その直後ブラツク、ホワイト、ブルーム、イーグレットがカカロットに前、後、右、左に囲む

カカロット「なら上なら…な!？」

カカロットは上を見上げると羽がついたハピネス組がいた

そのほかオールスターズもほとんどん囲みついには逃げられなくなった

カカロット「オラを囲んだか…ワクワクすんなあ」

カカロットも普通に考えたらヤバイ状況なのに

サイヤ人特有の本能かカカロットは笑う

ブラツク「これであんたは逃げられ…痛!？」

ブラツクがしゃべっている途中にカカロットが顔に殴る

カカロット「いや…隙だらけだから…つい」

ブルーム「それは卑怯なり！」

カカロット「いい!?!おらが悪いんか!？」

ドリーム「うんうん！卑怯卑怯！」

カカロット「お、おう分かった…」

戦いとしては良いのだが、人としては最低だと追い詰められるカカロット

カカロット（ムーンライト…これオラが悪いんか？）

ムーンライト（いいえ、あなたは悪くないわ）

カカロット（だ、だよなあ！）

カカロットとしては非常にやりづらかった

勝ち筋は頭にあるんだが、それを実行したらすべて卑怯と言われる

のではないかとどうしても考えてしまう
カカロット「戦いだから許してくれよお…」

ピーチ「だめ！」

カカロット「ああ！オラ怒ったぞ！はああああ！！！！」

カカロットは気を開放し、オールスターズを吹き飛ばす

カカロット「でりやあ！」

ブラックの顔にパンチして上にあげて、両手を握ってブラックの背中
中にぶつける

雷のように素早く動き真下に移動してブラックを腹から蹴り上げる

ブラックは地につき、戦闘不能にさせた

カカロット「いくぜ！」

次はお前とばかりにブルームに超スピードで腹パンする

ブルームが腹を抑えてる間に、空を飛び

ブルームの背中に複数の気弾を浴びさせ戦闘不能にさせた

カカロット「次もしつこく言うようなら…わかつてるよな？」

オールスターズ「はい、もうしません」

簡単に言えばオールスターズはカカロットにちびった

カカロット（最悪な出会いなのはそちのほうかもな…

だけでもつたいねえな…まだまだ強くなれるのにな…

いつ来るかわかんないから毎日鍛えた方がいいと思うんだけど、

これからのためにもな…）

カカロット「まあいいや！許してやるよ！」

この言葉オールスターズはほっとする

カカロット「今回はオラが悪いからな…ほら仙豆だ食え」

カカロットじゃブラックとブルームに仙豆を食わせた

すぐさま立ち上がる二人共

ブラック「あれ？私は…」

ブルーム「私は確か…」

二人とも状況が理解できず、そこでカカロットが
状況を説明して納得させた。

カカロット「よし！それなら大丈夫だ！」

ホワイト「一瞬で直した！」

アクア「彼女は何者なのかしら？」

カカロット「オラか？オラキュアカカロットだ」

ムーンライト「それがあなたの名前なのね」

カカロット「ムーンライト、こんな茶番に付き合っていてありがとな！」

ハート「え？茶番？」

マリン「え？そうなの？私てつきりカカロットとムーンライトさん
が

敵対してるかと思っただけど…勘違い？」

ムーンライト「私も止めようとしたけど彼女がね、

戦いたいという戦闘狂みたいな発言するもんだから

びつくりして、本人がどうしてもというから…ねえ？」

カカロット「青い薔薇にも棘が付き物かよ…」

ムーンライト「フフツ…」

かすかだがカカロットの言った言葉に笑うムーンライト

カカロット「まあでもお前も苦労したもんな…まあいいや」

ムーンライトに近づきながらそう言う

ムーンライト「な、何を…」

カカロットはムーンライトの頭を撫でた

カカロット「ふふん！仕返しだ！」

ムーンライト「や、やめ…」

(気持ち良すぎて私の理性が…！た、たもてない…！)

ムーンライト「えへへ…」

ムーンライトは子供のように笑い、はたから見たこの光景は

父親が自分の子供をなでているように見えた

カカロット「お前見かけによらず意外とかわいいんだな」

ムーンライト「はっ…!？」

ムーンライトは正気を取り戻し、カカロットから離れる

ムーンライト「うううう…！」

ムーンライトは恥ずかしながら顔を隠す

マリン「キャ…キャラ崩壊したっしゅ…あのゆりさんが…」
サンシャイン「こんなかわいいゆりさんみたことない…」
一同はあんなムーンライトに呆然とした
ハート「ねえカカロット？私にも撫でてくれないかな…」
ハートはカカロットにこう言った
カカロット「あぁいいぞ」

ハートも同じ反応になり、ピンクチームはカカロットの周りに集まり

ファンからサインが欲しいほしいと願うように、
カカロットはいろんな意味でモテモテになっていた
カカロット「しょうがねえなあ」

カカロットはピンクチームの頭をなで終わったのであった

次回のドラゴンズプリキュアゴットは？

カカロット「道中でギーロって奴にとんでもねえ
罠にかかっちゃまった！まともに戦えるのはオラと
キュアハートしかいねえ…！」

ハート「ど、どうしよう…！」

カカロット「ハート！強くなるんだ！」

ハート「つ、強くなるったってどうやって…！」

カカロット「オラに考えがある」

次回！「誕生！蒼き地球の勇気の守護者！」

ハート「絶対見てねえー！」

界王様「わしの役目…ともかく！主は指をリハビリ中ですので
ちよっと遅くなるかもしれん」

主「ごめんよ…！」

第二話！ 「誕生！蒼き地球の勇気の守護者！」

カカロット「ここなんか不気味だなあオラうずうずしてきたぞ…」
ハート「私も…」

ダイヤモンド「き、気持ち悪い…」

ギーロ城の廊下は壁に目玉がついていて、まるでオールスターズの動きを観察しているように見え、気味が悪くなったのだ

カカロット「壁ぶっ壊すか？」

ロゼッタ「やめてくださいいな…」

カカロットの脳筋作戦にあきれるロゼッタ

ハッピー「カカロットはどこから来たの？」

ビューティ「そういえば聞いてませんでしたね」

カカロット「オラ、ここじゃ宇宙人っていうのかな？」

オールスターズ「宇宙人!？」

オールスターズはあっけなく自分が宇宙人ですと

発言したため度肝を抜かしたオールスターズ

スター「カカロット宇宙人だったの!?!きらヤバ!」

スターが宇宙人というワードを聞き、興奮する

カカロット「そんな興奮するものか？」

スター「うんうん!」

カカロット「内緒だ」

スター「え？」

と困惑するスター

カカロット「知るのはまだ早い…ただそれだけさ

けど、いつかは説明するさ…オラがこの地球に来た理由とかな!」

カカロットにつこりと笑いそう言った

スター「むう…いつか教えてよ？」

カカロット「ああ!約束だからな!」

スターを撫でてそういう

スター「やったあ…!」

会話をしているうちに、三人組の気配が消えたり現れたりしていた

カカロット「何かいるな」

カカロットは歩くのをやめ、周りを探る

カカロット「みんな！ここに：なっ!？」

カカロットは後ろを見ると、たった一人を除いてオールスターズが倒れていた

ハート「な、なんでみんなが：気づかなかった」

カカロット「くそお…！完全にやられちゃった」

???「ふん、傑作だな」

???「まああつけない」

???「プリキュアと妖精の魂を奪ったのだからな、それは当たり前だ」
暗闇から徐々に姿を現し、二人の前に現れた

カカロット「お前らか！こんなことをしたのは!？」

ダークプリキュア「私の名はダークプリキュア：

私から右にトワイライト、イースだ」

ハート（ど、どれも聞いたことがある！

この三人つてやつとの思いで倒したって聞いたことがある…
か、勝てるのかな？）

ハートは外見は平気そうだけど、内心焦っていた

カカロット「ここは逃げた方がよさそうだな」

ハート「え？」

トワイライト「そうしてもらえるとありがたいですわ…」

イース「勝手にしろ」

カカロット「十分待て…」

ダークプリキュア「何？」

カカロット「十分ここで待てと聞いたんだ…」

キュアハートを最強の戦士にさせる」

ハート「え？わ、私が？」

トワイライト「十分？それくらいいいのですの？

一時間とかそういうのではないのですね」

カカロット「たったの十分でお前らがやられるんだ…」

十分待たせたことを、本気で悔しがるというさ」

カカロットはハートの肩に触れて、ある場所に瞬間移動した
ダークプリキュア「何!?!」

トワイライト「見えなかったですわ…」

イース「いや、おそらく瞬間移動だろう」

パッションよりも戦闘向きのな」

焦る二人に、それを見て読んだイース

カカロット「よ!デンデ」

デンデ「あ!悟空さん!そちらの方は?」

ハート「キュアハート:です」

ハートはなぜか緊張して、少し固まってしまった

カカロット「そんな硬くならなくてもいいぞ?」

ハート「で、でもなぜか緊張するの!」

カカロット「ほれ」

カカロットはハートの気を送り、あつたまらせた

ハート「あつたかい…癒されるう」

ハートはリラックス状態になった

カカロット「デンデ、例の奴できたか?」

デンデ「はい!もちろん!」

カカロット「サンキュ!行くぞハート」

ハート「ああ!待ってよお!」

急ぐカカロットに慌ててついていくハート

ポポ「おお!きたか!」

カカロット「ポポ!こいつはキュアハート

早速中にはいらせてくれ!」

ポポ「分かった」

ポポが結構でかい茶色の扉を開けると、そこには

真っ白な世界が広がっていた

ハート「な、なにここ!?!空気が薄いし、

なんか蒸し暑いしどこここ!?!」

カカロット「精神と時の部屋ってやつだ」

準備が終わったカカロットがハートにそういう

ハート「精神と時の部屋って何？」

カカロット「一日で一年分の修行のできる部屋だ
デンデに頼んで一分で一年分の修行ができるんだ」

ハート「ここでカカロットと十年過ごすんだ…」

カカロット「風呂はあつちで、食料がそこ、ベットがこつちだ
早速はじめっぞ！」

ハート「う、うん！」

しばらく歩き、座ってカカロットはハートと目を合わせる
カカロット「まず覚えてほしいことは気のコントロールだ」

ハート「気のコントロール…気って何？」

カカロット「見てろよ？」

カカロットは片手を出し気のエネルギー弾を作った

ハート「綺麗…」

カカロット「こいつはたぶんすぐできる、やってみろ」

ハート「うん」

ハートはひたすらに片手に力を込めていた

カカロット「それじゃだめだ、力を込めてるだけだ

目を閉じて体中に流れる気をイメージして、

それを片手に球を作れるようにするんだ」

指示されたように同じ事を繰り返し出すと、見事に成し遂げた

ハート「で、出来た…結構疲れるね」

この動作で結構な集中力を使ってしまった、疲れてしまったハート

カカロット「その程度で疲れるようじゃまだまだだな」

ハート「そ、そんな…」

カカロット「落ち込むじゃねえ、少しずつ頑張るんだ

お前は誰よりも勇気を持っている、あいつらに勝つぞ！」

カカロットはハートの頭を撫でてそう言った

ハート「…はい！」

ハートは死ぬ気で頑張ることを決意した

カカロット「よし！次の修行だ！」

ハート「次はなにをするの？」

カカロット「ほれ」

カカロットは超能力で、ハートの重力が300倍にもなった
ハート「お、重い!？」

カカロット「お前の重力を300倍にした
それを当たり前に過ごしていくぞ」

ハート「これで生活するの!？」

ハートは過酷と知ってはいたが、ここまで
きついとは思わなかったハート

カカロット「強くなれるんだよなあ：ハートには無理だったか…」
ハート「なっ…!」

カカロットのセリフを聞いて、心から燃えたハートが

ハート「克服して見せるもん!」

と若干涙目のハートが反論する

カカロット「そっか!じゃ頼むぞ!」

ハート（心の底から後悔してる…）

いわなきやよかつたと後悔するハート

だが案外すぐ慣れ、一か月程度でなれた

カカロット「すげえなハート、一か月で慣れちまったよ…」

カカロットがハートの成長ぶりに驚いた

ハート「やったやったあ!」

ハートはカカロットに褒められたことを喜んでいる

カカロット「じゃ外すぞ?」

カカロットは重力を解除させる

ハート「軽い軽い!」

ハートはわーいわーいと辺りを何周もする

カカロット「ここからが本番だ!これからお前に武術を教える」

ハート「ゴクリ…」

カカロット「とその前にハートはオラと戦う

その方がハートのこと分かるからさ!」

ハート「う、うん」

その後、沈黙が走る

カカロットは右腕後ろに下げ、左腕を突き出し空のように静かに構える

ハートも右腕を右に伸ばして、それを曲げ右手を顔の横に置き
左腕はお腹の右側に沿ってと自然と体が構えた

ハートの汗が地に落ちた瞬間

ハート「はっ！」

ハートが最初に飛び出し、カカロットに連続攻撃をかました

カカロットはそれを難なく、受け止めた

カカロット「もつとスピードを上げるんだ！」

ハートも指示を受けてスピードを上げる

カカロット「よし！いいスピードだ！」

ハート「はああああ!!」

カカロット（こいつ…どんどん早くなって）

ハートがどんどん急成長し始め、ついに手加減はしてはいるけど

カカロットに当てるのだった

ハート「はあ…はあ…！」

ハートは激しい連続攻撃をしていたので疲れてしまった

カカロット「やるじゃねえか！オラに一発攻撃を当てるなんてよ

！」

ハート「全然効いてないの？…ええ…」

ハートはショックは大きい

カカロット「たった一か月でオラに攻撃を与えたかんな！」

ハート「？つけ…」

ハートは一か月で気の感知と消す方法と放出する方法を

学んでいるので手加減してるくらい素人でもわかるのだ

カカロット「こつからどんどんペースを上げていくぞ」

ハート「はい…」

カカロット「まずお前の攻撃を受けてお前の弱点が分かった

それは自分で理解してくれ、それと聴きたいことがあるんだ」

カカロットはハートの体力を回復して、こう言った

カカロット「お前が最も強かった時ってなんだ？」

ハート「えつと…それって自分だけの力?」

カカロット「何でもいいからさ…教えてくれよ」

ハートは自身が最も強かったパルテノンモードを

カカロットに話す

カカロット「ふくん、すつごく強いんだな!」

ハート「だよねだよね!正直言っパルテノンモードでも

カカロットにはかなわないと思う…」

カカロット「ちゃんと心に記憶してるんだな」

ハート「?どういう事?」

カカロットの言っ意味が分からないハート

カカロット「説明してるるときすつごく楽しそうだったぞ?」

ハート「そう…かな?」

カカロット「まず第一の目標!誰の力に頼らず常時パルテノンモ-

ド

になることだ!」

ハート「へえ…え、ええええええええええ!!??」

ハートは本当の本当に意味が分からなかった!!!

カカロット「ん?そんなにおかしいことか?」

ハート「うんおかし!みんながいないと無理なのに!あと三種の

神器も:」

カカロット「何とかなるさ!」

ハート「ええ…」

カカロットの発言に呆れていたハート

ハート(六花はこんなこと思っってたのかな…)

カカロットの行動は前のハートに似ていたので、

ハートは仲間のことを考えた

3年後立ったある日、この時のキュアハートはいろんな技を使える

ようになり

少し身長が伸び、胸も膨らんでいて、体が少し太くなった(筋肉と

いう意味で)

そしてパルテノンモードが一人でできるようになった

これが3年の修行の成果だ

カカロット「これからどうすつかな…」

ハート「カカロットの全力を見てみたいかも」

カカロット「そうだなあ…みせてやつか！オラの力を！」

カカロットはまず超サイヤ人になる

カカロット「これが超サイヤ人だ」

ハート「綺麗…」

超サイヤ人から発する光と碧色の目にほほれてしまった

カカロット「そしてそれをさらに超えた…超サイヤ人2だ」

ハート「感電しないよね？」

カカロット「多分大丈夫だ」

ハート「た、多分…」

ハートはこう思った「こんなにエネルギーを持つてたら…」

人々の暮らしが楽になるんじや…」と…

カカロット「次は…これが超サイヤ人3だ」

ハート「髪型が長くなって少し怖い顔になった…」

カカロット「そしてこれがさらに超えた超サイヤ人ゴットだ」

ハート「赤く輝いてる…しかも気を感じなくなった」

カカロット「これは神の力を持ったサイヤ人だから」

ハート「サイヤ人…確かこの前話した戦闘民族サイヤ人の…神」

カカロット「まだ上があるぜ？」

ハート「これでも十分すごいのに…まだ上があるなんて」

カカロット「よし！いくぜ！」

カカロットは気を引き締めて、気を高める

カカロット「はあああああああああああああ!!!」

カカロットの気がさらに高まりハートは吹き飛ばされそうに

なりながらも何とかこらえた

ハート「すごい力だ…!気を感じなくても体で伝わる！」

カカロット「うおあああああああああ!!!」

カカロットの周りに青いオーラが、髪の毛も青くなる

カカロット「これが超サイヤ人ゴットを超えた超サイヤ人…」

超サイヤ人ブルーだ！」

ハート「周りの空気が…変わった…？」

カカロット「この状態じゃお前を一発で倒せるさ」

ハート「私はサイヤ人じゃないから…なれないよね」

カカロット「いや、なれなくともそれに近いものになればいいんだ」

ハート「え？」

カカロット「まずその前に神の修行をさせる」

ハート「神の修行…それが何になるの？」

カカロット「まず神の気を探れるようにしたいしな」

ハート「うん分かった！」

半年で何とか神の気を探るコツをつかんだ

それと同時に、あることをしていた

カカロット「……………!!!」

カカロットは超サイヤ人のエネルギーを無理やり

キュアハートの体になじませた

ハート「うううう…!!」

無理やりねじ込ませているため、当然ハートの身にも何も起こらな

い

というわけではないもちろん痛いのだ

カカロット「体中に流れている気をコントロールするんだ」

ハート「うくん…」

ハートは言われたようにやると少し体が楽になった

カカロット「負けるな、怯えるな、恐怖をするな、

もう怖いものはない…仲間がいるから、だろ？」

ハート「うん、ありがとう」

ハートも次第に笑顔になり、無事完成したのだった

そして…ハートが超サイヤ人になった

ハート「すごい…すごい力だ」

カカロット「これを自由に扱えるようにするぞ」

この後も、超サイヤ人ブルーになるためにこれを毎日繰り返した
5年半経つ時、ついに超サイヤ人ブルー完成系になった

ハート「く、苦労した…」

カカロット「いや、正直オラも驚いてるぞ！

たった5年半でブルーになるなんてな！」

ハート「同じブルー同士でもこうも違うのはショックだけど…」

カカロット「基礎能力が違うからな！」

ハート「経験の差がありすぎる…か」

カカロットは今までずっと疑問に思ってたことを話す

カカロット「ハート、今まで思ったけど服きつくねえんか？」

ハート「きついよ…？今にでもちぎれそうなくらいだよ…」

ハートは5年でさらに胸がFカップになり、身体も大人になって子供用のあのピンクの服装では結構きついのだ

カカロット「新しい服に変えてやるよ」

ハート「え？服とか作れるの？」

カカロット「オラ、前にちよつくら勉強してき！」

服なら簡単に作れるぜ？プリキユア用のさ！」

ハート「ありがとう」

カカロット「いいってもんさ！」

ハートは来るまで寝て待とうとするが…

カカロット「ハート、ここで寝るな」

ハート「え？でも」

カカロットはハートを引っ張り、カプセルらしいものに入った

カカロット「酸素カプセルだ、服を変えたらもう戦いだからな！」

ハート「そつか、体を休ませるためか…ありがとう」

カカロット「じゃ、また会おうな！」

ハート「うん…おやすみなさい」

カカロットは酸素カプセルを起動し、急いで服を作りに行った瞬間移動でウイスに相談して素材と子供に戻す為連れて来たウイス「あらま、もう服が破れそうですね？」

カカロット「だろ？大人から12歳に戻してくれねえか？」

ウイス「はいはい！どうぞお任せあれ！」

ウイスは杖を構え、大人から子供に戻した

ウイス「はい！これでOKです！」
カカロット「サンキュー！あんがとな！」

（胸だけちよつとしかちゅちゅくなつてねえじゃねえか…

無理だったんかな？）悲報Fカッツになる

ウイス「いえいえ、別にいいですよでは！」

ウイスは杖で空間に穴をあけ、脱出する

カカロット「よし！作るか！」

半年後…

カカロット「よし！これでいいだろう！」

カカロットが作ったものは、黒が全体的に存在し、おなかの部分には

白いハートのマークが、白い手袋もあり、手の甲に白いハートがある

背中には白いX（ゼノ）のマークがある

この一つ一つの素材の中にカッチン鋼が仕込まれていて、

生半可な攻撃では微動だにしない、しかもカカロットの気も交じっているので

寒い所においてもヒーター機能が発生し、体があつたまる

逆の意味でも発動する、どんな場所にも最高の戦いができる万能服
闇という存在自体を無効にする能力がある（作中ほぼノーダメになる）

これを装着すると、左目が急速に進化し、目から白いビームを常に放つ

雑魚だつたら簡単に倒せることができる（勝手に攻撃するから体力消費はない）

ちなみにこの服の耐久度は超のブローリーフルパワーの力にも

耐えられるくらいの耐久度をもって、自由に服を脱げられる

地味に伸び縮みする、髪の色が薄いピンクになり、目の色がレモン色になる

カカロット「きつと似合うぞお！」

カカロットはとある重大なことに気づく

カカロット「そういえば、キュアラビーズじゃなきや使えないよな
…

そうだ！ハートまだ持つてるよな…？」

ハートのからキュアラビーズを取り出し、この黒い服をキュアラビーズに

ぶち込むとピンクのキュアラビーズが真っ黒に光り、
デザインの弓矢が白色になる

酸素カプセルで寝ていたキュアハートの服がさつき作った服にな
る

カカロット「これで良しつと、ハート起きろ」

ハートの体を揺らし、ハートはその反動で起きる

ハート「眠い…あれ？なんか服が変わってる…作ったの？」

カカロット「ああ！いったろ？さあ！いくぞ！

お前がいた地球へな！」

ハート「うん！」

カカロット「そういえばお前ら二つ名があつたよな？」

ハート「うん」

カカロット「あつちについた時、決めとけよ？」

ハート「うんわかった！決めとくよ！」

瞬間移動で地球についたのであつた

次回のドラゴンズプリキュアゴットは!?

界王様「ギーロの思惑でわざとプリキュアに魂を戻した、
しかも、今まで戦ったラスボス的存在、ジャアクキングや
ゴーヤーンなどがギーロの魔力で本来よりも強くなり、
皆があきらめる寸前、キュアハートが到着した」

ハート「ここは私に任せてくれない？みんな」

ダイヤモンド「あなた：もしかしてハート？

なんでそんな姿に、何があつて：」

ハート「それはあとで話す、ここは私一人でやる」

ソード「一人でなんて：そんな」

ギーロ「貴様：何者だ？」

ハート「蒼き地球の勇気の守護者！キュアハート！」

ハートは新しい決めポーズで、そう言う

ドリーム「蒼き地球の：」

ハッピー「勇気の守護者？」

次回！第三話！「不死身のキュアハート！たった一人のヒーローの
戦い！」

ハート「そう易々と倒せると思うなよ？」

第三話！「不死身のキュアハート！たった一人のヒーローの戦い！」

ハート「着いた…か」

カカロット「オラはここまでにする」

カカロットの発言に疑問を抱いたハート

カカロット「オラは、ここを守っちゃいけねえんだ…」

何故ならオラはここに存在しないはずの人間だからな」

ハート「…そっか、でもそんなのは関係ないと思う少なくとも悟空さんは」

カカロット「どうしてだ？」

ハート「悟空さんは、別の地球から来たと言っていたし、

悟空さんも地球を守るために戦い続けたんでしょ？傍観者から見れば」

カカロット「まあそうだけだよ…」

ハート「強制的には言わない…でも、これだけは約束してほしいもし、私達がやられたらこの地球を守ってほしい」

とハートは暗い顔でそう言った

カカロット「何言ってるんだ？お前らがやられるわけねえ…！それはお前が知ってることじゃねえのか？気持ち悪いなあ…」

ハートはすぐに明るい顔になり、カカロットに謝る

ハート「ごめんなさい、でも、一緒に守ってほしいというわがままは

聞いてほしい…だから「分かった」え？」

カカロットは負けたようにそう言う

カカロット「確かにここも地球だそのわがまま聞いてやるさ…」

ハート「ありがとう」

カカロット「さあ、いけ！あいつらを守るんだ！

オラは住民を避難させる、頑張れよ！」

ハート「はい！」

カカロットは親指を立てその場から消える

同じくハートも親指を立てその場から移動する：闇の三人衆へと

ハート「久し振りだな：でもここでは10分ぶりか：」

ダーク「貴様、いったい何があった？なぜ短期間でここまで強くなった？」

ハート「その質問は焦っているという解釈でいいのかな？」

ダークの疑問に対し、ハートは「答えるわけないだろ」のようにダークを煽った

イース「：どうしてもしやべらないつもりか」

ハート「当たり前だ：教えたら悟空さんに殺されちゃうからな」

トワイライト「もう待つののは疲れます：もう殺りませんか？」

焦ったようにハートが答える

ハート「おいおい、待てよ：同じ黒同士仲よくしようぜ？」

冗談と思ったのか（思ってなくても）イースたちは断る

イース「ふん、生憎だが貴様の髪の色が少々明るすぎるのでな：断る」

ハート「やっぱり仲良くできないか：なら消えてもらおうぞ」

ハートはあきらめたようにそう言う

ダーク「貴様なんかに私たちが負けるか！はっ！」

ダークはハートの前に飛び、全身全霊を込めた右の拳を当てる

ハートは殴られた衝撃に少しだけ吹き飛ばされる

ダーク「：おい立て、この程度でやられる貴様ではないだろ？」

ダークの呼びかけがあり、何事もなかったかのようにハートが立ち上がる

ハート「さすがだな：気づいてたのか」

ダーク「まあ、だろうな：」

ダークは平然としているが体がかすかにふるえた

が、それを見逃さなかったイース

イース（一瞬体が震えた：？ダークは何で怯えてるんだ：）

イースは疑問に思った、この中で一番強いのになぜか怯えているということに

「ダーク（私の拳を食らってもへっちやらか…化け物が…!）
トワイライト「何してますの？三人で決めましょう？」

トワイライトは何も気にしていなく三人で攻めようと提案
ダーク「ああ…それしかないだろうな」

イース「よし、行くか」

三人はゆっくり歩いてキュアはハートに近づくと

ハート「三人か…少しは持つんだろうなあ？」

三人はハートの挑発に乗り、一気に加速し、

ハートに蹴りや拳などの攻撃をこれでもかと叩き込むが

ハートはゲーム感覚で交わしていた

ハート「随分マシになったじゃねえか…だが！」

ハートは三人の攻撃を一度に止め、気合でその場を爆発

吹き飛ばされた三人は、煙幕に包まれ、ハートを見失った

トワイライト「どこにいますの?!」

トワイライトが後ろを見た瞬間

ハート「こつちだ！」

トワイライトの見た方向と反対（つまり正面から）に現れた

トワイライトは正面に戻ろうとするが、やはり間に合わず

ハートの右ストレートを食らった、そして腹パンなど数発殴り吹き

飛ばす

イース「トワイライト!?どうしたんだ！」

イースも周りが見えず適当に行動するが、脱出できない

ハート「隙だらけだぞ」

ハートはイースの頭を掴み、いつの間にとらえていたダークと頭を
ぶつける

そして、地面にたたきつけ両手でエネルギー弾を放つ

ハート（仲間にできないかな…こいつら）

とハートは心の中で思い、一方三人は苦しくも立ち上がる

ダーク「貴様、なぜ手加減をした…」

ダークの言った言葉に驚きを隠せない

ハート「私は、君たちを倒すことはできない…」

イース「それは…情けからか？それとも慰めか？」

少し沈黙が経ち、ハートは口を開く

ハート「目で見ればそう見える、だから…人間としてみればいい所だけど、戦士としては最大の欠点だ…」

そんな私に一つだけわがままを聞いてほしい…」

ここにカンマをそして、手を差し伸べて最後の文を作った

ハート「過去と向き合い、私たちと一緒に戦ってくれないか？」

三人「な!？」

ハートの発言に驚きを隠せない三人

ハート「ちなみに…答えは聞かないよ」

ハートは高速で三人を気絶させるその後、瞬間移動で

カカロットに届けて現在修行中

ハート「ふう、よしいくか！」

ハートは超スピードでみんなのところに向かった

一方プリキュアの魂が…

ギーロ「なんだと…あの三人が負けるとは…まあいい

あいつらは使い捨てだからな」

ギーロは不気味な笑いを告げる

ギーロ「このままではつまらん、キュアハートの絶望する顔が見てみたい」

ギーロはなんとそんなつまらない理由で、オールスターズを復活させた

そして、突然場所が変わったことに驚くオールスターズ

エース「私達は、なぜここに…」

ダイヤモンド「ハートが、ハートがいない!？」

オールスターズ「ええ!？」

オールスターズは見回って見えたが、ハートはいなかった

ソード「ハートはどこにやったの!？」

ギーロ「ただあなた達と一緒に捕まえられなかっただけです

キュアハートが来たときに、絶望をくれてやろうかとねえ!」

ギーロは力を開放し、なんとオールスターズから作られた

ラスボス達がバーゲンセールのようにぞろぞろと出た
これにはプリキュアたちも驚きを隠せない
しかも、元より強くなっているし普通の人間サイズに縮まった
ある意味弱点を克服している状態で現れたのだった
プリキュア達は、一度倒した相手なので勇気をもって挑むが、
前と同じじやダメだ：前と同じことをしたら、罪もない
人々を巻き込む可能性が出てくるし、そのあとのギョー口戦に体力が
持たず、このままではただのジリ貧だ
方法は一つしかない：ミラクルライトでもラスボスの誰かがそれ
を

食い止めるだろう：そう、圧倒的な力だ

圧倒的なスーパーパーを持っただけでプリキュアが必要なのだ
ほかにも方法はあるのかもしれないが、彼女達の脳内では

このことしか思いつかなかっただろう

オールスターズ「きやあああああああ!!!」

オールスターズは激しく吹き飛ばされ、地面につくばっていた

ジャアクキング「ふん、つまらん」

ゴージャーン「ただでは殺さん：じつくりと」

デスパライア「飴玉をなめるようにじわくりとな…」

ラスボス達「フハハハハハハハハハハハ!!!」

この笑い声によりオールスターズは絶望してしまった

ブラック「もう無理：かも」

フローラ「こ、ここまできて…」

館長「あきらめたくない：か？」

ドリーム「館長…」

プリキュアのあきらめない闘志が燃え上がりそうな時、

館長がこう発言した

館長「それは私たちも同じことだ」

ヘビプリ「私達もあなた以上に決意してるのよ」

デューン「簡単に言うとお前たちが強くなればなるほど

俺たちは同時に強くなるってこと」

オールスターズはただ膝をつくだけだった

ハート「私も混ぜてほしいなっ」と

ハートはオールスターズの気を感じ取り、前に現れた

ダイヤモンド「ハート？なのよね？」

ハート「うん、今は訳ありだからあとで話す

よく頑張ったね：あとは私に任せて」

ハートはダイヤモンドにそう言い、一人でラスボスたちに立ちはだかる

ソード「無茶よ！そんな：あなた一人なんて：ハート？」

ハート「……………」

ハートは敵の方に首を向け、顔の額に血管が浮き出る

ロゼッタ「ソード、やめた方がいいですわ：あんな怒ってる

ハートは、見たことがありますわ：」

ソードはハートを止めようとするが、ロゼッタが止める

みんなも呆然としており、中にはハートの真の力を敵よりも先に思
い知る事に：

ムーンライト（こ、これがあのキュアハートだというの？）

エース（み、見られるだけでちびりそうですわ：）

サンシャイン（こ、怖い：）

フォーチュン（圧倒的ね：）

等々怖いなどのコメントがたくさんだ

ハート「お前達の好きにはさせねえぞ：」

ピエーロ「キュアハート：一人で戦うつもりか？愚かな」

ハート「ふん、愚かなのは貴様らの方さ」

デウスマス「随分舐めたような口をきくな：」

お前たちを殺したら次はどこに行こうか：」

デウスマスの言葉に怒りに満ちたハート

ハート「もう許さんぞ：！貴様ら〜！」

ハートは気を爆発的に上げ、白いオーラを纏う

ピエーロ「鬱陶しい奴だ」

ピエーロは左手から闇のエネルギーの単発を放つが、ハートは

闇を受けながらピエーロに突っ込んだ

ピエーロ「何!?!」

ピエーロの顔に肘を一発、両手で地面にたたき落とすおかげで
ピエーロに大ダメージを与えたが、あまりにも威力が強すぎるせい
で

全身が疲弊していた

ハート「ああああああ!!!」

ハートは大きな声を上げ、ジャアクキングの前に瞬間移動し、
首に蹴り、そして腹パンしまくり気合砲で吹き飛ばす

続いて館長に後ろ首に手刀、地面に頭をたれてつくばつてるときに

ハートが頭の方向に現れ、両手をおなかの前に置き、気をためた

ハート「プリキュア!メテオブラスト!」

ハートは気功波を両手で押して、館長に直撃させる

おかげで地面が削れたが…

これを見たラスボス達は、全員でハートの周りを囲む

デスパライア「これが貴様の実力か…だが、最強は我らでよい!」

ラスボス達が一斉にハート達にかかる

ハート「…焦り始めたな?」

ハートは「ふっ…」と笑い、その場からジャンプ

ハート「失敗したな!一か所に集まっているぞ!」

ハートは真下にかめはめ波を放とうとする

デスパライア「いいのかしら?地球が木っ端みじんに吹き飛ばわよ
!」

ハート「かゝ!めゝ!はゝ!めゝ!」

ハートの周りに青白い光が神々しく輝く

ダイヤモンド「ハート…うそでしょ?ほんとに打つつもり?」

ドリーム「ハート!そんなことしたら地球が…!」

その瞬間突如としてハートが消える

みんな「え?」

突然消えたので、ラスボスたちもオールスターズと同じ反応をとつ
てしまう

ビューティ「いったいどこに…全く見えませんでした」
突如ハートがビューティの前に現れる

ハート「波あああああああああ!!!!!!」

ラスボス達は、このかめはめ波で完全に消え去った

(ちなみにギーロごと城も吹き飛んだ)

これでこの物語もおしまいおしまい♪

ハート「ふう…いやあ良かったあ…!」

ハートは前と違う感じになり、性格が元に戻った

ハート「修行したかいたがよかったよ!」

ハートの前と性格が全然違うので呆然としてるオールスターズ

ハッピー「なんで姿変わってるの?」

ハート「これ?カカロットが作ってくれたんだ♪

どう?かっこいいでしょ?さいつこうでしょ?」

ハートはウキウキになりオールスターズに見せまくる

ソード「それ作れるのね…知らなかったわ」

ハート「これすつごい着心地いいんだよ?」

ダイヤモンド「ハート、そろそろ話しなさい

私たちが意識がないときあなたは何をしていたかを!

何から何まで全部話しなさい!」

ハート「ふええ!?!めんどくさいよお!」

ハートは10年の出来事を全部話さなきゃいけないと思いきやここ
ねる

ダイヤモンド「いいから話しなさい!」

ハート「うう…わかったよ」

10年間の出来事をすべて話した

その後、オールスターズはハートの話した出来事にいろんな意味で

感動した

めでたしめでたし

次回のドラゴンズプリキュアゴツトは？

マナ「次回は日常パートだよ！」

悟空「キュアハートの能力とか全部オラが説明するぞ！」

次回！「激しい修行で生まれた力（キュアハート編）」

マナ「次回も見てねえ~~~~~!!!!」

第5話 激しい修行で生まれた力（キュアハート編）

マナ「もうあれは二度とやりたくないよお…」
オールスターズはありすの家に着き、マナは椅子に座って腕を伸ばした

六花「悟空に突っ込みどころ満載なのよね…」

悟空のやった修行に、みんな疑問を持っていた

シャルル「キュアラビーズを変えらるなんてすごいシャル」

タルト「プリキュアの服って作れるんやな…カカロットはん凄いな！」

みゆき「やっぱり厳しかった？」

マナ「修行は厳しかったけど、悟空はすつごく優しくて戦いが大好きで…」

怒るときはしっかり怒ってくれるんだ…そんな人に修行してもらって

すつごくうれしかった…自分として誇りに思ってる」

マナは悟空のことを思い、そう言った

悟空「ちよつと恥ずかしいな…オラは別に何もしてないのにさ」

悟空は瞬間移動でマナたちの着く

ゆり「貴方…いつからそこに…」

悟空「ん？今着いたところだぞ？」

マナ「そうだ、ねえ悟空ちゃん！」

マナはずつと知りたがってたことを悟空にいう

マナ「僕の新しい服っていろんな機能があるの？」

悟空「ああ！あるぞ！盛りだくさんだ！」

悟空はある機械を取り出し、ボタンがあるのでボタンを押した
すると、空中に画面いっぱい広がった新しい服が乗っていた
それに服にそれぞれ線がついており、そこに能力が載っている
それと同時にマナは画面に吸い寄せられ、変身した状態で画面内に
映った

ハート「あれ!?ここどこ!？」

悟空「ただのヴァーチャル映像だ！気にすんな！」

オールスターズ「いや気にするって！」

悟空の発言にオールスターズ全員突っ込む

悟空「この方がてっとり早いしな、早く慣れてくれると助かる
ハートの能力を説明するぞ？3種類あるからな」

全員「意外とある…」

悟空「まずその1、キュアハートの左目にあるキラアイだ」

ひめ「なんか白いビームを打ってるね…」

悟空「こいつは何より命を持つてる」

のどか「命？つまり生きてるってことですか？」

悟空「まあ、簡単に言えば寄生虫みたいなものだ

攻撃もできるぞ？例えばマシンガンみたいに白い弾丸を無限に打
つことができるし

あるいはレーザービームも打てる、最大の特徴は相手の筋肉の動き
や骨、

内蔵も見れるから、害がない放射能も放射できるところだな！

レントゲンっていえばできるようになるぞ後おまけに武器も作れ
る

盛りだくさんだろ？」

ひめ「え？ほぼチートじゃない？」

のぞみ「つまり、なんだっけ？」

りん「簡単に言うとも目から放射能を放つことができるの…！」

のぞみ「なるほど！やつとわかったよ！」

悟空「その2、服のギミックだ」

えりか「服にもなんかあんの？」

悟空「ああ！良いうあれは二度とやりたくないよお…」

オールスターズはありすの家に着き、マナは椅子に座って腕を伸ば
した

六花「悟空に突っ込みどころ満載なのよね…」

悟空のやった修行に、みんな疑問を持っていた

シャルル「キュアラビーズを変えるなんてすごいシャル」

タルト「プリキュアの服って作れるんやな…カカロットはん凄いな！」

みゆき「やっぱり厳しかった？」

マナ「修行は厳しかったけど、悟空はすっごく優しくて戦いが大好きで…」

怒るときはしっかり怒ってくれるんだ…そんな人に修行してもらって

すっごくうれしかった…自分として誇りに思ってる」

マナは悟空のことを思い、そう言った

悟空「ちよつと恥ずかしいな…オラは別に何もしてないのにさ」

悟空は瞬間移動でマナたちの着く

ゆり「貴方…いつからそこに…」

悟空「ん？今着いたところだぞ？」

マナ「そうだ、ねえ悟空ちゃん！」

マナはずつと知りたがってたことを悟空にいう

マナ「僕の新しい服っていろんな機能があるの？」

悟空「ああ！あるぞ！盛りだくさんだ！」

悟空はある機械を取り出し、ボタンがあるのでボタンを押したすると、空中に画面いっぱいに広がった新しい服が乗っていたそれに服にそれぞれ線がついており、そこに能力が載っているそれと同時にマナは画面に吸い寄せられ、変身した状態で画面内に映った

ハート「あれ!?ここどこ!？」

悟空「ただのヴァーチャル映像だ！気にすんな！」

オールスターズ「いや気にするって！」

悟空の発言にオールスターズ全員突っ込む

悟空「この方がてつとり早いしな、早く慣れてくれると助かるハートの能力を説明するぞ？5種類あるからな」

全員「意外とある…」

悟空「まずその1、キュアハートの左目にあるキラードアイだ」

ひめ「なんか白いビームを打ってるね…」

悟空「こいつは何より命を持つてる」

のどか「命？つまり生きてるってことですか？」

悟空「まあ、簡単に言えば寄生虫みたいなものだ

攻撃もできるぞ？例えばマシンガンみたいに白い弾丸を無限に打つことができるし

あるいはレーザービームも打てる、最大の特徴は相手の筋肉の動きや骨、

内蔵も見れるから、害がない放射能も放射できるところだな！

レントゲンっていえばできるようになるぞ後おまけに武器も作れる

盛りだくさんだろ？」

えりか「え？ほぼチートじゃない？」

のぞみ「つまり、なんだっけ？」

のぞみ以外にもわからないひとがいるようだ

りん「簡単に言うと目から放射能を放つことができるの……！」
りんが超ざつくり教える

のぞみ「なるほど！やつとわかったよ！」

とのぞみはやつと理解した

悟空「その2、服だ名前はガーディアンオブブレイブ」

えりか「服にもなんかあんの？」

悟空「ああ！良い素材でできてるぞ！なんてたって宇宙一の金属を仕込んでるからな！」

ほのか「宇宙一の金属？なんですかそれは？」

悟空「カッチン鋼ていう金属で生半可な攻撃じゃ虫が皮膚についてと同じさ！」

そして何よりも重力が300倍以上ある領域以外は最高な戦いができるところだな」

はるか「例えばどんなところで？」

悟空「水の中や酸素がない宇宙とかどんなところでも今まで道理に戦えるんだ！」

ひめ「強つよ!?キュアハートだけで十分じゃないの!？」

い

そんなことはさておき、アンデットの力を封印したのがラウズカー
ドだ

オラはそれを回収したいろんな効果があるから説明するぞ」

カテゴリーA コンダーアンデット スナイプ

悟空「100万KM先の相手にも打てるようになるぞ」

れいか「相手の立場になったら恐ろしいです…」

カテゴリー2 ウッドペーカーアンデット アロー

悟空「矢の威力を高めるぞ」

カテゴリー3 ハンマーヘッドアンデット チョップ

悟空「強力なチョップを繰り出すことができる」

ひめ「なんかいきなり地味になった…!?!」

カテゴリー4 ドラゴンフライアンデット フロート

悟空「風を発生させ、烈風のメスのように切り裂くぞ」

なお「いや怖い怖い…」

カテゴリー5 シェルアンデット ドリル

悟空「回転力を強化して、スクリューキックを繰り出すぞ！」

さあや「ドリル…」

カテゴリー6 ホークアンデット トルネード

悟空「攻撃に風属性を付与するぞ！」

なお「属性付けられるんだ…」

カテゴリー7 プラントアンデット バイオ

悟空「蔦を生成し、対象を絡め捕ることができるぞ」

つぼみ「いたそうです…」

カテゴリー8 モスアンデット リフレクト

悟空「敵の攻撃をはね返すことができる」

えりか「安心のバリア！」

カテゴリー9 キャメルアンデット リカバリー

悟空「自分または味方の体力を満タンまで回復させることができる

ぞ！」

ゆうこ「回復役増えたのは心強い！」

カテゴリー10 センチピートアンデット シヤツフル

悟空「自分と相手の位置を入れ替える

弱そうに見えるけど、強いぜ？」

ゆり「不意打ちもできるし：強いわね」

カテゴリーJ ウルフアンデット フェュージョン

悟空「ウルフアンデットと融合して、ジャックフォームに変身できるぞ！」

暗闇でも普通に動けるくらいだけど：まあ、あんま使うことはねえと思うけど」

あおい「不遇だね：」

カテゴリーQ オーキッドアンデット アブゾーブ

悟空「後で紹介するけど、ラウズアブゾーバーに入れると

ジャックフォームかキングフォームのどちらかになれるんだ」

はるか「変身するためのキーカード：」

カテゴリーK パラドキサアンデット エヴオリユーション

悟空「ハート単体での最強フォーム、キングフォームだ！

今ここで変身してほしいけど、やめとく」

ハート「え？なんで？」

悟空「ピンチの時にお披露目したらよりインパクトあるんじゃないやねえか」

オールスターズ「どうでもよ!？」

ハート（いや：そんなことないはず、悟空さんなら

ここで変身しても損はないはず：もしかして誰かに見られてる？

それとも何かすごいデメリットが：）

ハートは難しく考えるが、考えるのをやめた

悟空「一通り終わったけどよ：まだいっぱいあるんだよな」

えりか「頭がパンクするっしゅ：ていうかもうしてるう」

悟空「あともう一つだけ説明させてくれ！」

ひめ「一言にして！」

悟空「マナが生まれて来た時からずっと見守っている神獣がいる」

この言葉を聞いて場はシーンつとしていた
六花「生まれた時からずつと？」

ありす「見守ってくれてる神獣？」

悟空「オシリスの天空龍だ、ほら出てこい」

悟空はヴァーチャル映像（絶対いらなかった）を解除し、

それと同時にキュアハートのまま放り出されたマナ

オシリス「こんにちわ！、オシリスだよ！よろよろですう♪」

オシリスのあまりの可愛さにもうすぐ萌死にしそうな人たちもい

た

ハートとオシリスは二人ともなぜか真剣に互いに目を見た

オシリス「……………」

ハート「……………」

10秒経った後……………

悟空「わっ！」

オシリス「うぎゃ!？」

ハート「うわっ!？」

二人とも驚いて腰を抜かしてしまった

悟空「へへーんだ！何真面目な顔しやがってよお！

これで終わりだ！早く帰れオシリス」

オシリス「え？もうかえるの?!いやだよ！」

悟空「かめはめ波撃つぞ？」

オシリス「それだけは勘弁してください」

悟空はオシリスの首をつかみハートに投げる

どうやらハートの心の中に入ったらしい

悟空「とまあこれである程度は言っただな！

残り一つあるけどどうでもいいやつだしな…ハートにこの後伝え

とく」

ハート「今日はありがとね！ちなみに言わなくても大丈夫

オシリスちゃんから教えてもらったから！」

悟空「お前らには結構後になるがサプライズも用意してるからな！

楽しみに待ってるよ！じゃあな！」

と悟空は瞬間移動でどこかに立ち去った
六花「マナ：悟空のことどう思ってる？」
ハート「頭がおかしい人」
ハートは変身を解除し、そう言った

第6話！鏡からの支配者

豚のしっぽ亭でいつもどうり料理しているわけだが、妙に店が騒がしかった

マナ（なんか妙にうるさいなあ…なんか知らない？オシリスちゃん）

オシリス（私もよくわからないけど…マナちゃんが美人だからじゃない？）

ほら、いくら子供に戻ったって見た目はそのまんまじゃない！

マナ（ありそうであるかも、いやもしくは僕がかわいいから…きつとそうだ！）

オシリス（オシリスもそう思います）

マナは誰かに呼ばれたので、その声の発生源にたどり着く

おっさん「マナちゃん！オムライスくれないかな？はあっはあっ…」

マナ「オムライス一つ…僕を見て興奮しちゃった？夜…いいよ？」

おっさん「ありがとね、マナちゃん、ぐへへ…」

マナは軽く誘惑をかけ、おっさんを落とした

マナ（これを悪用する屑でどうしようもない女がいるわけか…

そういうやつは一匹たりとも許さない…！僕の男と

関わったら…すぐ殺してやる、フッフ…）

オシリス（もう、おうち、かえる）

悲報 マナちゃんヤンデレになった

マナ「いつも道理にやろうつと…ん？」

マナ（嫌な予感がする…大勢の悪い気が大量に押し寄せてきてる）

ドゴーンツ！

モブ男「な、なんだ!?この大きな爆発は!?!」

マナ「皆!ここを離れて!僕が原因を探る!」

モブ女「お願いします!」

マナ（これでお客さんは避難できた…誰なんだ？馬鹿なことをやってるやつは…）

マナは急いで店から離れ、人込みを避けながら素早く走る
???「いいぞ！もつとやれ！私の計画を実行しなさい！」

空に大勢の味方を引きずり、人々を襲わせた馬鹿な女がいた
マナ「このことをやってるバカは君かな？」

マナは無事到着し、馬鹿な女にあいさつ

ミーヤ「私の名前はミーヤ、この世界に宝物をすべて奪おうと思っ
てねえ

どう？私の発明品の、かわいいカイルは？」

オシリス（どうやら大勢を襲っているのはカイルですね

それを指揮しているのがミーヤと：カイルは今までの敵と比べて
地球人サイズなんですわね）

マナ「残念だけど僕にとってはちつともかわいくない

僕、いたずらに人を傷つける奴はキウンつとしないんだ」

ミーヤ「あらそう？これだから地球人は：カイル！やりなさい！」

カイルが四方八方にマナの周りに囲む

カイル「かいかい：かいかい：」

マナ「かいかいって、ちよつと気持ち悪いなあ」

オシリス（シャルル：まだ起きてないねえ、ツンツン）

カイル「かいかい：！」

カイルの中の一体がマナに襲い掛かる

マナ「おつと：もう危ないっなあ！」

マナは紙一重に交わして、カイルの背中をける

カイルは5M先に飛ばされた

マナ（みんなは別のところで戦ってる：ここは一人でやるか）

マナ「カイル君達？もうこんなことはやめよ？」

カイル「かいかい！かいかい！」

カイル達が急激に速度がアップし、マナに襲い掛かる

マナ「ふっ！やっ！」

マナはカイルの肩をつかんで、後ろにバク転

マナは厳しい環境での修行を行ったので、体の柔らかさやしなやか
さなど

オリンピック選手涙目の運動神経を手に入れたのだ

なので、変身してなくともある程度戦える(かめはめ波も打てるし)

マナは次々とカイルを蹴ったり、殴ったり倒しまくっていた

ミーヤ「なんでよ!なんで地球人ごときに!」

つと言い残し、どこかに立ち去った

マナ「変身しなくてもいいかも、雑魚敵の弱さだったら」

オシリス(あまり無茶は…ていうか全然余裕でしたね)

マナ「この程度ならいけるって、六花の気を感じ取ってと…あった
!」

マナは瞬間移動で、六花の元へ移動

マナ(おっと、六花から30m離れた位置に瞬間移動してよかった
かも)

マナは全☆速☆前☆進☆して走る

一方プリキュア達は…

???「俺に勝てるわけない、というわけできつさと殺られる」

人型の怪人に苦戦を強いられた

マーチ「これまずいよね…本当にさ」

ビューティ「フリー、とてつもない強さです」

フリー「お前のお命いただくぜ…」

フリーはマーチとビューティの首をつかもうとしたところ、その二人が消えた

フリー「な、なに!？」

マナ「残念だけどそれはやらせないよ?フリー君?」

シャルル「マナ?今何してるシャル?」

マナ「今起きるの?もうちよつと空気読んでよお…!」

オシリス(ほんとはマナが一回転してるとき起きてましたけどね、
二度寝しましたけども)

フリー「なんだ貴様は!?貴様もこいつらの仲間か!」

マナ「まあそんなところ…よくも僕の友達に手出そうとしたねえ
?」

マナは額に血管を浮かびあげ、笑顔でそう言った

フリー「ふん！弱いこいつらがいけないんだ！

俺はわるくねえ！弱肉強食だしな！」

フリーの発言に呆れるマナ

マナ「もういいよ…シャルル、オシリス行くよ…」

シャルル「こんな奴許さないシャル！倒すなんて生ぬるいシャル
！」

オシリス（はい、とても死にたいようなのでかなえさせてあげま
しょう！）

シャルルとオシリス

マナ「覚悟しろよ…この虫野郎！」

ダイヤモンド（口調が変わった？いや…マナ、すごく怒ってる…）

マナはリンクドライブをセットし、

黒いキュアラビーズをラブリーコミュニケーションにセット

そしてGODとなぞる

GOD！コンファームド！

GOD to Fly！ GOD to Fly！ GOD t

o Fly！GOD to Fly！

周りにハートがキラキラ輝く

リンクドライブに右から刺す

マナ「変身…」

GOD UP！ Descent of God！

Now, here is Precure with lov

e, courage and pride.

is hereby divinely born！

ハート「お前に慈悲を与えない…」

フリー「ふん！やはり仲間だったか…だが、そいつらと同じ様な目
につっ!？」

フリーの目の前に突然ハートが現れる

ハート「お前…その名のとうり不利な状況だよ？」

フリー「なんだと!？」

ハート「じゃあ僕はどうかやって君の前に現れたんだろうねえ？」

フリー「いい加減にしろお！」

フリーはハートにストレートパンチしたのだが、ハートは消える

フリー「何!?どこ行った！」

フリーはキョロキョロと横を見る

後ろという選択は取らずに：

フリー「どこにいやがる！」

ハート「ここだ」

フリーは後ろへ振り向く瞬間

フリー「が!?が、あああああああ!!!!!!」

フリーのお腹がハートの右腕によって貫かれていた

ハート「君の眼を見たとき、君の記憶が一気に僕の頭の中に流れて

や…

吐きたくなるような感覚だったよ?だから悪いけど死んでもらう

ごめんね?でも、君を生かしておくわけにはいかないんだ…」

フリー「き、様あ！」

フリーは血反吐（物理）を吐きながら言った

ハート「来世で良い暮らしを過ごしてほしい…」

ハートは右腕を抜き、血を払ってから

リンクドライバーからラブリーコミュニケーションを取出し、

再びなぞる（別になぞんなくてもいいが、威力が少し落ちる）

LOVE! 必殺承認!

G O D t o f l y ♪♪ L O V E t o f l y ♪♪ G O

D t o f l y ♪♪ L O V E t o f l y ♪♪

必殺待機音が流れる（ホーリーライブ風）

ハートはラブリーコミュニケーションを再びリンクドライバーにさす

ハート「プリキュア!ゴットブレイク！」

ハートはその場で回し蹴りをして、フリーはその場で分子レベルに

なり消滅

ハートの周りにハートマークが光り輝いていた

ハート「大丈夫だった?みんな?」

ダイヤモンド「ハート…あれはさすがにやりすぎだと思うわ」

ハート「何がぁ？僕なんもしてないでしょ？」

ソード「とぼけないで、あんたが敵を…殺すなんて」

ハートの行動についてとても怖がっていたソード

ハート「しようがないじゃん、モタモタしてたら人質とられるかもしれないし」

ドリーム「ハート…ホントはそれと同時に別の理由があるんじゃないの？」

ハート「あるっちゃあるけど、それはみんなが知る必要はない」

ハートは顔を暗くしてそう言った

ハート「もう、二度とあんな残酷な決断したくないから…」

ムーンライト「残酷な決断？それはどういうこと？」

ムーンライトがハートの発言に気になった

ハート「それは…いや、ここで話すのやめよう」

まだ戦いは終わってないらしい、いるんだろ？出てこい！

???「たいわかどの…すろこ！」

???がハートに突進するが、ハートが???のあたまを抑えて止めた

ハート「そろそろ…その演技はやめた方がいいんじゃないの？」

???「ばれたか、俺はミーヤ様に作られた究極の人造人間ミラーだ！

ミラーは後ろに下がりそうだった、身長は220cmあるのでハートは見上げた

ミラー「ちよつと空気が悪かったかな？では100m先に待ってるからな」

どういう訳か、ミラーは空気を読んで指定した場所に移動した

ハート「空気が読める奴で助かった…」

ダイヤモンド「さっきのあの…残酷な決断って何？」

ハート「あれは、悟空さんの所で二年半たったところだった…

悟空さんに異世界に行つて、ある試練を達成させるために…」

ビューティ「ある試練とは？」

ハート「プリキュアにならずに、生身で世界を救うこと」

マリリン「へえ、そういう…つてええ!?生身!？」

サニー「明らかにおかしいやろ!?死んでまうで!？」

大半のプリキュアも同じ気持ちだ

ハート「僕も思った！思ったけど…やったよ、その試練を…達成できたけど」

ブラツク「できたんだ…すごいね、でもそれに何の意味があるの？」

ハート「僕の素質を確かめるためにやった」

エース「その素質とは？」

ハート「プリキュアになる資格がある素質があるかないか…」

プリンセス「え？私たちもうなってるじゃん？人救ってるでしょ？」

ハート「プリキュアになって初めて人を敵から救ったんじゃないやダメなんだ…」

プリキュアにならなくても人を死ぬ気で守り、それで初めてプリキュアになれる

プリキュアになれないと人を救えないやつに、プリキュアになる資格はない」

オールスターズ「……………」

ハートのこの言葉はオールスターズの心に大きく刺さる

ハート「僕はまず異世界に行った…とても綺麗なところだった、すぐその人たちと半年間仲良く暮らせた

でも、空から宇宙船が降ってその異世界を奪おうと侵略してきた

たくさんの人が殺された…僕は敵を倒し、走って遂に親玉にたどり着いた…そいつと戦って

やっと倒せた、けどそいつの目的も悪とは言えなかったんだ」

アクア「悪とは言わない…何か納得するようでない目的があったの？」

ハート「あいつらの文明はすでに滅んでいて、新しい文明を築き上げようと巨大な宇宙船で

ほかの星に行って、文明を一から作ろうと頑張った…でも、途中で燃料が切れて

仕方なく…自分たちのために、星を乗っ取って…この戦いは誰のせいでもなかった

話し合えばまだ助かったかも知れない…でももう遅かった

この戦争を終わらせる悪魔が必要だった…：そうしなきゃいけないかった…

だって、このまま放置したらどちらとも死ぬまで戦い続ける…だから僕が悪魔になった…：あいつらをたくさん殺しまくった何人殺しただろうなあ、5億人かな？そんなくらいころしてた救いはした、誰からも感謝された…僕にとっては苦痛でしかなかったけどさ」

ハッピー「お、重い…話があまりにも…」

フォーチュン「一瞬吐きかけそうになったわ…」

ハート「まあでもいつまでも落ち込んではいられない、殺した奴の分までぼくは生きなきゃいけないからさ！」

ハートはいつも以上の笑顔を見せてつけてそう言った

ダイヤモンド「…メンタル化け物ねハート」

オールスターズはいつものハートで安心した

ハート「吾輩はく！無敵だく！無敵の帝王様なのだく！ワツハツハ―！」

ハートはミラーのところまで歩きながらそう言った

某、あのクソガキ代表のあのトウカイテ…おっと失礼

ソード「帝王？ハートが帝王なわけないでしょ？」

ハート「はったおすよ？ソード君？」

ソードの顔に近づき、ハートは殺気を放ちそういった

ソード「いや、私は…何も言っていないわ…」

(怖すぎるとのよ!?!、こちとら漏れそうだったわ!?!)

ハート「ならよろしい！みんなはこの僕に従えばいいの！」

ハートはクソガキっぽくそう言った(うん、なんか正直むかついたわ、でも想像したら鼻から愛が…)

マリリン「ムカつくう！こいつ〇してやるっしゅ！」

マリリンの暴走はブロッサムが止めて、歩き続ける

ハート「……………どうしよっかなあ」

ハッピー「ハート？どうしたの？」

ハート「正直言うとき、このままだと勝てないんだよね」

.....

オールスターズ「え？」

オールスターズは同時に足を運ぶのはやめてそう言った
プリンセス「え？勝てないの？」

ハート「このままだった危ないけど、本気出せばどうってことないよ」

というどハートは拳を握り、ピンク色のオーラを纏い、空気を殴つた……ように見えた

ハート「……………ちゃんど待つてよ？待つて飽きたの？」

ミラー「グツ！ばれていたのか……」

実はミラーに腹パンしたハート

フォーチュン「？、全然気付かなかつた……ずっと気づいててこれか？」

ハートのやつてすることに驚きを隠せないフォーチュン

ハート「その程度の技術で僕を……まかそうたつてそうはいかないからね」

ミラー「やはり、これは面白い戦いになりそうだ」

ミラーは体を動かしそうだった

ハート（あちやち、本気でやつたのにぜんぜん応えてないのか……）

ハートは右腕をゆっくり回し、気合を入れる

そうするとハートからピンクのオーラが出る

ミラー「ふん！」

ミラーも同じく気合を入れて、全身から白いオーラを出る

ピース「か、かつこいい……」

ピースはオーラが出て二人を見てそうだった

ハート「君のいったとうりいい戦いになりそうだ……」

ハートがそういうと、周りが静かになる

ハートから流れた冷汗が地面に落ちた瞬間

ハートとミラーは大きく右足を少し上げ、足ふみをして、それを軸にしてばねのようにジャンプ！

ハート「うおおおおおおおおおおお！！！！！！」

ミラー 「絶対負けんんんんんんんんんんんんんんんんん
!!!!!!」

第7話！圧倒的な力！

ハート「うおおおおおおお!!!」

ミラー「はあああああ!!!」

ハートとミラーの拳がぶつかった

ハート「ぐううう!!!」

ミラー「フフフ…」

ミラーは拳をパーの形にして、ハートの拳をつかんだ

ハート「しまった!?!」

ミラー「脆いわ!」

ミラーはハートの拳をつかみ、ハートの体ごと持ち上げる

ムーンライト「パワーでは負けてるわ…!」

ダイヤモンド「ハート：頑張つて…!」

ハート「そう簡単に、やられてたまるかっての!」

ハートは瞬間移動で脱出する

ミラー「何？何が起きている!?!」

ミラーは突然の事態に驚きを隠せない

ハート「ここだあ!」

ハートは人間だったら急所である首に回し蹴り

ミラー「グエアアアアアアアア!!!」

ミラーは変顔をしながら吹き飛ばされる

ハートは気を開放して、ミラー以上の速度で追いつき元居たところ

へ殴る

ハート「ブイ!」

ハートはダイヤモンドの気を感じ取り、ブイサインを決める

ハート「どう？僕の活躍！かつこよかったでしょ?」

ダイヤモンド「…後ろ」

ダイヤモンドの指がハートの向こうのミラーに刺す

ミラー「ほう、これがキュアハートの力か…データ以上だ」

ミラーはピンピンしていた（何も食らってない）

ハート「?…僕本気でやったのに全然効いてないなんて…」

ハートは今までなく真剣になる

ミラー「さあ、次はこっちの番かな？」

ミラーは超スピードでハートを翻弄する

ハート（速い!? 僕の倍以上だ!）

ハートが驚いてそう思ったのも束の間ミラーが襲い掛かる

ハート「く…!」

ハートは連続攻撃をギリギリで交わすが、少しかすっている
ラブリー「押されてる!? マナちゃん頑張ってる!」

エール「フレ!フレ!ハートちゃん!」

ハートを応援することしかできないラブリーとエール
だが、それはほかのみんなも同じだった

フオーチュン「私達に加勢してもただの足手まといになるわ…」

フローラ「それ以前に助けに行けられない… 行けたとしても
逆に助けられる未来しか浮かばない…」

己の力の弱さに恨んだやつもいた

ハート（どうする… このままいつてもジリ貧だ

そうだ!あれがあつた!）

ハートはミラーの動きにも慣れていたので、ミラーの攻撃を捌き
切った

ミラー「その顔… 何か策があるように見える」

ハートの余裕の表情にミラーは読み取る

ハート「見せてあげるさ…」

ハートから赤いとどろくオーラが現れる

ハート「行くぜ! 界王拳!」

ハートは赤いオーラを纏う

ミラー「何!? 急に倍以上に強くなっただ!?」

ハート「界王拳… スピードもパワーも全部倍になる技だ」

ミラー「ほほう… それはまた面白い技だ」

というところハートはその場から消える

ハッピー「消えた!」

ハート「こっちだ…」

ミラーの後ろに移動していたハート

ミラー「ちっ！」舌打ち

ハート「…行くぜ！」

ハートは界王拳5倍にして、ミラーの頬を殴る

その後も連続で上半身に殴り続け、足を後ろにして大きく蹴り上げる

ハート「かく！めく！はく！めく！」

ハートは界王拳のオーラをもっと出し、かめはめ波をもうすぐ放つ体制に入る

ミラー「こんな事はあつてはならない！最強はこの俺だああ!!!」

ミラーも苦しむぐれのエネルギー砲を外ートに放った

ハート「波ああああああああ!!!」

それに対し、ハートは界王拳5倍のかめはめ波を放つ

二人のエネルギーがぶつかり合う

ハート「ぐううううう!!!」

ミラー「ぬううううう!!!」

ハートとミラーは互角の渡り合い

ハート「界王拳… 10倍だああああああ!!!」

ハートが一気に押し返した

ミラー「ふっ！」

ミラーはギリギリのところでお互い

ハート「そう簡単にはくたばってほくれないよね… ははは」

ハートは界王拳を解除し、そう言う

ミラー「何故だ… なぜ俺はこんな小娘にいいいいいい!!!」

ハート（生きてる年は僕の方が上だと思う… そして何よりもずい）

どうやって勝ったらいんだ？

ミラーの体がどんどん変わり、全身緑色になる（セルっぽい）

ミラー「待たせたな……これが俺の本当の力だ」

ハート（誰も待つてないっての……！）苦笑いして、冷汗を流す
ブロッサム「これって強くなったんじゃないやありませんか!?」

ミラクル「どうするのお!? ハートちゃん！」

メロデイ「信じよう……最後まで」

オールスターズはただ祈ることしかできない

ハート「それがお前の本当の力か……リミッター解除というべきかな？」

ミラー「まあ、その一種だと思えばいい……」

ハート「口はもうチャックかな？」

ミラー「好きにしろ」

ハート「じゃあ好きにさせてもらおう！」

ハートは瞬間移動を繰り返しながら、ミラーに近づき殴るが……

ハート「うっ!？」

ハートはもろに攻撃を受けて、血を吐いた

ハート（そんな……全然通用しないなんて……）

ハートはすぐに体制を整えて、瞬間移動してどこかに消える

ミラー「……無駄という言葉を知らないのか？」

ミラーはあきれながらも迫ってくる黒い正体を裏拳でぶったたく

その裏拳がハートの顔に命中した

ミラー「ギリギリのところまで急所を外したか……只物じゃないな」

ハートは四つん這いになり、頭を垂れてつくばっていた

ハート（こんな奴……あの力に使える余裕で勝てるけど、使いたくない……）

オシリス（ハート……早く気づいてください、自分のやるべきことを！）

ハート「くっそ……！」

ミラーはハートの頭にエネルギーを貯める

ミラー「さらばだ！」

ミラーはハートに放とうとするが、ハートが消えた

ミラー「何!? どういうことだ!？」

ミラーはあたりを見渡さるが、そこらにはいないようだ
ハート「くっ！」

ハートは瞬間移動でオールスターズの元に戻るが、変身が解除される

ダイヤモンド「マナ！大丈夫!？」

ロゼッタ「マナちゃん大丈夫ですか!？」

ダイヤモンドロゼッタがマナを抱える

マナ「大丈夫じゃないといえば嘘、でも休んでいるわけにはいかない……！」

マナは再び立ち上げる、するとどこからか声がした

??「マナがこんなところでやられるなんてらしくねえぞ？」

超サイヤ人になりや勝てるのにどうしてなんねえんだ？」

マナはこの声を聴いて確信した

マナ「悟空さん!?!どうして……！」

エール「え!?!どこにいるの!?!全く見えないんですけど!?!」

エールは周りを見渡すが、やはりいない

マナ「当然だよ……テレパシーだからさ」

エールにマナが説明する

悟空「マナ、何があつたんだ？今のお前ならあんな奴血を流せずとも勝てたる？」

マナ「僕は……悟空さんの力を借りずに自分一人の力で勝とうとしてた

でも、勝てなかった……それだけですよ」

マナは悔しそうな顔をしてさういう

ドリーム（マナちゃん…… いったいどうしたの?）」

悟空「何言つてんだ?くだらない考えだな」

マナ「くだらないって……それはひどいよ」

悟空「マナの気持ちはよく分かるさ、確かに他人からもらった力と自分で手に入れられた力の重さは違う……でもよマナのために言うぞ?」

悟空は息を少し吸い込みこう言った

悟空「いつまでもくよくよ悩むな！例え他人からもらった力をもつてしてもだ！」

お前はこの世でたった一人に人間、相田マナだろ！

全部ひっくるめてお前ひとりしかいねえ！

みんなと力を合わせて戦うのがお前の戦い方なんだ！

オラもその一人に混ぜてくれよ！」

マナ「!?!」

マナはようやくわかった…自分一人ではなくみんなの力を合わせて戦うのが良いのと

オシリス（やつと気づきましたか…　そうですよ、最初から悩む必要なんてないんです）

マナ「…そうだよね！こんな所で悩んでられない！悟空さん！貴方からもらった力を

存分に使わせてもらいます！」

シャルル「やったシャル！前のマナに戻ったシャル！」

オシリス（良かった…）

G!O!D!コンファームド!

GOD to Fly! GOD to Fly! GOD to

o Fly! GOD to Fly!（ホーリーライブ風）

キュアラビーズから音声が出て、周りにハートがキラキラ輝く

マナはラブリーコミュニケーションをリンクドライバーに横に刺した

マナ「プリキュア！ゴツトリンク！変身！」

GOD UP! Descent of God!

Now, here is Precure with lov

e, courage and pride.

is hereby divinely born!

オシリスの天空龍がマナの周りに舞う

そして、マナの足元からベイブレードのように高速で回転しながら下半身、上半身へと上がり、周りにキラキラ輝くピンクのハートが

飛び散り、キュアハートが誕生する

ハート「蒼き地球の勇気の守護者！キュアハート！」

ハートがかっこかわいいポーズでかっこよく決めた
スター「なんか前より輝いてる気がする！キラヤバー！」

ダイヤモンド「…そっか、あの悲しい時以来心の中でずっと一人で戦ってたのね…」

ハート「愛をなくした悲しいミラーさん？この僕が愛を植え付けてあげる！」

ハートはいつものセリフをちよつといじくつた

メロディ「あ…セリフ変わってる！」

ハートは更に気を高める…

ハート「はあああああああああああ!!!」

ハートの白いオーラがどんどん金色になる

ハート「うううううううう!!!」

ハートの髪色がピンクから緑になり、また緑色から金色に変わった

ハート「うあああああああああ!!!」

空は黒雲となり、そこから雷がふる同時にハートは超サイヤ人となる

ただ、そこに立っていたのさっきのハートとはまた違う存在だった

超ハート(体が元に戻っている!?なんでだろう…子供の頃の体じゃ

耐え切れなかったのかな?じゃあなおさらかっこ悪い所見せられな

いや)

そこに立っているのは、大人の体に戻ったキュアハートだった

ミラー「なんだ…何なんだその力はあああ!!!ハートオオオ!!!」

ミラーは目の前に真実に逆らい、ハートに問いかける

超ハート「力づくで聞いてみるよ…」

超ハートはミラーに煽る

ミラー「舐めるなああああ!!!」

ミラーはハートにエネルギー弾を何発も放つ(グミ)

超ハート「どうした?この程度か？」

超ハートは全弾命中したが、全く効いていない

ミラー「そ…そんな馬鹿な!？」

超ハート「今のお前とじゃ勝負にならない!大人しく自分の家に帰

れ」

超ハートは無駄な戦いを避けるためにミラーを逃がす

ミラー「俺を… 舐めるなあ！」

ミラーはハートに飛びかかる…

超ハート「じゃあ、僕もちよぴつとだけ本気出しちやおうかな？」

超ハートはミラーを向かい打ち、イナズマの如く移動して

殴り、蹴りを繰り返して着々とダメージを与えていく

超ハート「そおれ！」

超ハートはミラーの右足をつかみ、そのまま地面に背負い投げ

した後に超ハート地面に着く前に高速移動して

ミラーの顔をつかんで、地面に引きずりとばす

超ハート「これで終わりだ…！」

超ハートはかめはめ波の体制に入る

超ハート「か…！」

超ハートの周りに黄金のオーラが天空まで激しく伸びる

そう影響で、周りは黄金のオーラが現れる

スカレット「きれいですわ…！」

アクア「ずっと見ていたいわ…！」

超ハート「め…！」

台風のような風が出来る（被害は出ていない）

マーチ「風が…強い！」

ビューティ「もはや、台風！」

超ハート「は…！」

超ハートの気が爆発的に大きくなる

超ハート「め…！」

超ハートの目が光り輝く

超ハート「波あああああああああ!!!!!!」

超ハートの放つ超かめはめ波が炸裂し!!!!!!ミラーは消滅する

次回に…続く！